

今月のことば

不要不急
ではなく
必要緊急のこと
それは
真実の教えに
出遇うこと

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師

こいけ ひであき
小池 秀章

「世間の人々はまことに浅はかであって、みな急がなくてもよいことを争いあっており、この激しい悪と苦の中であくせくと働き、それによってやつと生計を立てているに過ぎない。身分の高いものも低いものも、貧しいものも富めるものも、老若男女を問わず、みな金銭のことで悩んでいる。それがあろうがなかろうが、憂え悩むことに変わりがなく、あれこれと嘆き苦しみ、後先のことをいろいろと心配し、いつも欲のために追い回されて、少しも安らかなときがないのである。田があれば田に悩み、家があれば家に悩む。(中略)田がなければ田が欲しいと悩み、家がなければ家が欲しいと悩む」

〔浄土真宗聖典 浄土三部経(現代語版)〕(95頁〜97頁)

これは、『仏説無量寿経』というお経の一節で、お釈迦さまの説法です。今の私たちの在り方も、お釈迦さまの時代と、まったく変わっていないように思いませんか。急がなくてもいいことを急ぎ、本当に大切なものを見失っている。

では、急がなければならないことは何なのでしょう。それは、真実の教えに出遇うこと、具体的には、仏さま(真実に目覚めた方)の教えを、聞かせてもらうことではないでしょうか。

「何かを所有することによって得るしあわせ」「他人と比較し、上に立つことによって得るしあわせ」、それらはみな本当のしあわせではなかったと、気づかせてくれる教えに出遇えた時、本当に大切なものが明らかになってくるのです。

合掌